

令和4年度

運営に関する計画

(中間評価)

大阪市立加賀屋中学校

令和4年11月11日

目次	P.1
----	-----

1 総括シート

- 学校運営の中期目標……………P.2・3
- 中期目標の達成に向けた年度目標……………P.3・4
- 本年度の自己評価結果の総括……………P.5・6

2 目標別シート

- 生活指導部……………P.8・9・10
- 健康教育部……………P.10・11
- 特別支援教育推進委員会……………P.11・12
- 進路・特活委員会……………P.12・13
- 道徳・人権委員会……………P.13・14
- 第1学年……………P.14・15
- 第2学年……………P.16
- 第3学年……………P.17・18
- 国語科……………P.18・19
- 社会科……………P.19
- 数学科……………P.19・20
- 理科……………P.20・21
- 音楽科……………P.21・22
- 美術科……………P.22・23
- 保健体育科……………P.23・24
- 技術・家庭科……………P.24・25
- 英語科……………P.25・26

評価基準

- A:目標を上回って達成した
- B:目標どおりに達成した
- C:取り組んだが目標を達成できなかった
- D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

大阪市立加賀屋中学校 令和4年度 学校運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 基本的な生活習慣の確立と生活指導の充実を図る取組を実施し、遅刻者数の減少や学習規律の改善がみられるとともに、自らあいさつする生徒が増えている。そのため、落ち着いた学校環境の中で授業や学校生活を送れるようになってきている。しかし、一部生徒の遅刻の固定化や人間関係の不安による不登校生徒の増加が見られる点が課題として取り上げられる。
- 学習面において、教員の教材作成の工夫、授業力向上を図る研究授業の実施やICT機器を活用した授業改善を通して生徒が授業に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができ、主体的・対話的に学ぶことができるよう取り組んできた。学力調査の結果から経年で比較すると各教科で前年度を上回る結果となっている教科が多いが、平均正答率で全国や大阪府・市の平均を下回る結果となっている面が見られる、そのため、基礎・基本の徹底を図ることが課題としてあげられる。
- 健康、体力の保持増進を図るため、保健体育の授業の導入で俊敏性や柔軟性を高める運動に取り組んできた。昨年度は全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点が男女とも、全国平均を下回ったが、体育大会をはじめ球技大会やマラソン大会を実施し、様々なスポーツに触れる機会を増やし運動が苦手な生徒も興味・関心を持って取り組めるように工夫してきた。しかし、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において「運動が好き」「運動やスポーツは大切ですか」の項目において、全国平均を大きく下回っており運動に対する意識の低さが課題としてあげられる。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を71%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、

肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より5ポイント減少させる。
- 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を45%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を55%以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和7年度調査において、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- 令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を76.5%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より3ポイント増加させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 令和4年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を75%以上にする。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を80%以上にする。

- 令和4年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和4年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より1ポイント減少させる。
- 令和4年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。
- 令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、前年度以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和4年度調査において、70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 令和4年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和4年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和4年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にしているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 1学期末の校内調査における「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合は78.8パーセントであり、目標としている85%には達していない。
- 1学期末において、不登校生徒の在籍比率は前年度の2.1%(426名中9名)に比べ増加し、5.4%(425名中23名)となっている。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合は10名中1名(10%)であったが、今年度は1学期末において、23名中3名程度が別室登校、1名(あわせて17%程度)が放課後に学習をしにくることができている。

学校園の年度目標

- 1学期末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合は76%であった。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を80%であった。
- 令和4年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は96.1%であり、目標を大きく上回った。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合は前年度61%であったが、今年度は62.5%とわずかながら増加させることができた。
- 1学期末の校内調査には「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目がなかったため、最終評価で検証する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 1学期末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は51.1%であった。

- 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比がまだ出ていないため最終反省時に検証する。
- 大阪市英語力調査の結果が出ていないため、最終反省で検証する。
- 1学期末の校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目がなかったので最終反省時に検証する。

学校園の年度目標

- 令和4年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒は国語12.5%、数学35%、理科32.5%であった。令和3年度には理科がなかったが、国語15%、数学19.9%で国語では2.5ポイント減少させたが、数学では15.1ポイントも上昇してしまった。数学においては基礎・基本の徹底を継続して行っていく必要がある。
- 令和4年度の大阪市英語力調査の結果がまだ出ていないため、最終反省で検証する。
- 1学期末の校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目がなかったので最終反省時に検証する。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」が85%、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」が72.5%「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」が94.2%であった。平均すると、規則正しい生活を身に付けている生徒の割合は83.9%であった。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 令和4年度の校内調査には「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目がないため、最終反省で検証する。
- 10月末時点で年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合は35%である。

学校園の年度目標

- 令和4年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答えた生徒の割合は、前年度54.7%に対し今年度の1学期末時点で55.8%と少し増加した。
- 「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」を示す指標として1学期末の保護者アンケートの「家庭連絡や意思疎通を積極的にしてくれる」という項目に肯定的に答えた保護者の割合は90%であった。前年度86%より4ポイント増加している。

(様式 2)

大阪市立加賀屋中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和4年度末の保護者アンケートにおける学校の教育目標「(人権教育を基盤とし、生徒一人ひとりを大切にする教育実践を通して、互いに認め合い、自己実現のための学ぶ力を育む教育を推進する)」について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と肯定的に答える保護者の割合を75%以上にする。</p> <p>○令和4年度の全国学力・学習状況調査の「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒割合を80%以上にする。</p> <p>○令和4年度の校内調査の「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和4年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○令和4年度末の校内調査の「友達一人一人のちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。</p>	

<p>○中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を50%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和4年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率3割以下の生徒を、令和3年度より1ポイント減少させる。</p> <p>○令和4年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。</p> <p>○令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、前年度以上にする。</p> <p>○規則正しい生活を身に付けている生徒の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合)を令和4年度調査において、70%以上にする。</p> <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和4年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和4年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○令和4年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。</p>	
--	--

【生活指導部】

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
-------------------------------------	-------------

<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○年間を通しての「予鈴後登校」を減少させ、時間を守る意識を養う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての「予鈴後登校」を前年度より減少させる。 ・学期に一度、生活指導強化週間を通して意識を持たせるように働きかける。 ・生徒会や委員会活動を活性化し、生徒自ら啓発し合えるような働きかけをする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集会やあいさつ運動を通して、自ら進んで元気よくあいさつをする生徒を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の生徒アンケートにおける「自ら進んであいさつ、返事をしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・生徒会や委員会活動を活性化し、生徒自ら啓発し合えるような働きかけをする。 	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○班活動や学級活動、学年行事や学校行事等を通して仲間づくりを行い、安全で安心できる学校、教育環境の実現を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の生徒アンケートにおける「いじめを許さない」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 ・令和4年度の生徒アンケートにおける「丁寧な言葉遣いと素直な態度で人の話を聞いている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・令和4年度の生徒アンケートにおける「時間やルールを守って学校生活を送っている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①予鈴後登校について 5～10月現在 1年生:78回 2年生:237回 3年生:72回 昨年度の5～10月(前期)から4%の改善が見られた。</p> <p>②「自ら進んであいさつをする」 1学期の結果 94.4% 昨年度より、改善が見られ自発的に挨拶する生徒が増えてきている。</p>	

<p>③「いじめを許さない」 1学期の結果 90.5%</p> <p>昨年度より 5.2%、年度目標より 4.5% 下回っており、他人の気持ちを考え行動することは、集団行動や人と関わるうえで重要であるので、少しでも改善がみられるようにする。</p> <p>「素直な態度で人の話を聞いている」 1学期の結果 90.3%</p> <p>「正しい言葉遣いを意識して学校生活を送っている」 1学期の結果 83.4%</p> <p>上記2つに関しても昨年度より、3.3%、7.1%と減っており、素直な態度や、正しい言葉遣いは、生きる力を育むうえでも必要なことであると考えており、継続的に生活指導していく必要がある。</p> <p>また、他の項目や上記の項目に関しては、2、3学期の生徒アンケートでも検証を行い、少しでも改善がみられるようにする。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>

【健康教育部】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○緊急体制における教職員の連携を強化し、安全に留意した生活態度を育成する。</p>	A
<p>指標</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じた食物アレルギー対応研修会・救命講習会を実施し、事後アンケートで肯定的な回答を 80%以上にする。</p> <p>・職員会議等で、健康上の課題を有する生徒に関する報告を2回以上行い、教職員間の共有認識を図り、安全に留意した生活態度を育成する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○生徒保健委員会活動において、感染症の予防に留意した健康啓発活動を行い、健康推進リーダーとしての自己有用感を育成する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・活動後にアンケートを実施し、自己有用感を問う項目において、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>○生徒美化委員会活動において、感染症の予防に留意した美化活動を行い、美化</p>	B

推進リーダーとしての自己有用感を育成する。	
指標 ・活動後にアンケートを実施し、自己有用感を問う項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じた食物アレルギー対応研修会・救命講習会を実施し、事後アンケートで参加者全員から肯定的な回答を得ることができた。 職員会議等で、健康上の課題を有する生徒に関する報告を2回以上行い、教職員間の共有認識を図り、安全に留意した生活態度を育成している。 ②③生徒保健／美化委員会活動において、感染症の予防に留意した健康／美化活動を通して、健康／美化推進リーダーとしての自己有用感が育成できていると実感しているが、活動途中のためアンケートを実施しておらず、指標についての評価は次回に行う。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【特別支援教育推進委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○生徒の実態を把握し、安全な学校生活を送れるように教職員の共通理解を深め、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を充実させる。	B
指標 ・研修会で共通理解を深め、情報交換の場を設定する。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○校内外の行事に積極的に参加し、共に育ち・学びあう交流や共同学習を推進し、好ましい人間関係を構築する。	B
指標 ・年2回以上、他校と交流する行事に参加する。	
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】	B

○障がいの内容、程度をより理解するために関係諸機関との連携を図り、支援を充実させる。	
指標 ・年1回以上、関係諸機関(主治医やこども相談センターなど)との連携を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①職員会議や学年会での月1回の現状報告で教職員の共通理解を深め、各教科の支援体制も整っている。 ②交流学習は、コロナウイルスの影響により中止になり参加することができなかったが、学校行事や学年行事には積極的に参加することができた。 ③関係諸機関との連携は必要に応じて行っている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【特活・進路委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○校外学習や外部講師を招いたキャリア教育を各学年で実施する。	B
指標 ・職場体験や出前授業を通してキャリア教育を進める。 ・職場体験や出前授業などのキャリア教育を全学年で実施する。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○特活・進路の年間指導計画に沿って、学年と連携を密にし、実施していく。	B
指標 ・体験学習後のアンケート調査で、「よかった」と答える生徒を各学年 90%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○3年後の進路を見据えた基礎学力の定着を図るための取り組みを実施していく。	B

指標	
・朝学習を各学年で年間を通して実施し、定期テストにおける 5 教科平均 3 割未満の生徒の割合を 20%未満にする。	
・長期休業中に学力向上のための補充授業を各学年で実施する。	
取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	B
○学習形態も含めた授業改善により、基礎・基本の定着に取り組み、学力補充を充実させ、自ら学ぶ姿勢を育む。	
指標	
・令和4年度の中学生チャレンジテストにおける校内平均点を同一の母集団で比較し、前年度より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】	
①3年生では1学期に高校出前授業を実施し、2学期には面接講習会を実施予定であり、進路実現に向けた取り組みを実施できている。3学期には1年生では自己分析のための SP トランプセミナー、2年生は 1 学期から職業調べや職業新聞の作成を実施している。	
②1学期の出前授業においてはアンケート調査の結果、「よかった」という回答は90%を超えており、一定の成果が認められた。	
③朝学習については各学年において取り組みが行われている。夏季休業中についても各学年において補習が行われている。	
定期テストにおいては 30 点未満の生徒は1学期期末テストにおいては約 16%になっており、	
指標を達成している状況である。	
④	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
○	

【道徳・人権委員会】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○支援を要する子どもの理解など、教職員の人権意識を高めるための研修会を実</p>	A

施する。	
指標 ・全教職員を対象とする人権教育研修会を、年に 1 回実施する。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○人権教育の年間指導計画に沿って、学年との連携を密にし、実施する。	B
指標 ・月に 1 回、道徳人権委員会で指導案の精選を行いながら研修を進める。	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ○道徳教育の年間指導計画に沿って、生徒の実情に沿った教材を精選し、実践する。	B
指標 ・道徳の授業の振り返りから月に 1 回、指導案の精選を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①6月に研修会を実施し、全教職員で支援を要する子どもの理解をした。 ②人権教育の指導案の精選を予定通りに進めている。また LGBT の問題に対する取組を行うなど、計画以上に多種多様な問題に取り組んでいる。 ③コロナの影響を受けずに順調に進んでいる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【第 1 学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。	
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目の割合を 80%以上にする。	

<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自他ともに認め、尊重しあえる集団作りを目指す。</p> <hr/> <p>指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○教科と連携し、基礎基本を定着させる</p> <hr/> <p>指標 ・定期テスト前や長期休業中に補充学習を実施し、定期テストにおける5教科の3割未満の生徒の割合を20%以下にする。 ・基礎学力を定着させるための取り組みや、朝学習を活用した取り組みを学期ごとに実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①生徒アンケートより、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目が97.7%であり、年度計画で設定した指標を上回る進捗状況となっている。しかし、ルールを逸脱した行為をする生徒がいたことも事実としてあったので、今後改善していきたい。</p> <p>②「学年・学級の友だちと協力することができましたか」の項目は95.4%であり、年度計画で設定したそれぞれの指標を上回る進捗状況となっている。前期は、一泊移住や体育大会、文化発表会など、行事を通して、学年・学級で協力する機会あったが、今後も学年行事等を企画し機会をつくっていきたい</p> <p>③夏休みには3日ほど補充授業を実施した。また、集会のない日は朝学習を行い、既習事項の復習をした。</p> <p>「定期テストにおける3割未満の生徒の割合」は1学期中間では8%であったが、1学期期末テストは12%、2学期中間テストでは16%と少しずつ増加した。そのため、2学期からは定期テスト前に、終学活の時間に「デイリーテスト」を行い、今後も低水準に保てるように、働きかけていきたい。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>	

【第2学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。		B
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。		
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○自他ともに認め、尊重しあえる集団作りを目指す。		A
指標 ・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。		
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○教科と連携し、基礎基本の定着をめざす。		B
指標 ・基礎学力の定着を図るため、集会を行わない日の朝学活の時間帯に朝学習を実施する。 ・定期テストにおける5教科の達成率3割未満の生徒の割合を3分の1以下にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組の進捗状況】 ①「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合は93.4%と指標である80%を上回ることができた。しかしながらルールを守れない生徒が複数いる現状もあり、今後も指導をつづけていく。 ②「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を89.1%と指標である80%を上回ることができた。これからも協力できる学年づくりを心がけて、指導していく。 ③朝学習の実施を行うことはできたが、定期テストの達成率においては2学期中間テストで、達成できないものもあったため、年度末に向けて、より改善が必要である。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ○		

【第3学年】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○集団における規律を学ばせ、実践できる子どもを育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学校のルールを守った」という項目に肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>○自他ともに認め、尊重しあえる集団づくりを目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学期ごとに生徒アンケートを実施し、「学年・学級の友達と協力した」という項目に肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○教科と連携し、基礎基本を定着させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・基礎学力を定着させるため、朝学活の時間に朝学習を実施する。また、定期テスト前にはデイリーテストを実施し、定期テストにおける5教科の達成率3割未満の生徒の割合を20%以下にする。</p> <p>・実施可能な状況であれば、定期テスト前や長期休業中に補充学習を行う。</p> <p>・チャレンジテストにおける標準化得点を前年度(2年時)と同等に保つ。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>内容①および②について</p> <p>修学旅行では宿舎内や自由散策時などすべての場面において、スケジュール・時間の変更を迫られるような大きなトラブルや単独行動もなく、生徒が時間厳守に努めたおかげで、三日間全てのプログラムが順調に進んだ。また、新型コロナ陽性判定者に対する批判・誹謗中傷もおこらなかった。</p> <p>球技大会を2年生時より学級代表や体育委員に企画・運営を任せ実施しており、3年生でも同様に実施した。</p> <p>いずれの行事においても、中心となる生徒以外にも自主的な行動や活動が見られたことで、集団育成ができたのではないかと思う。このことを示唆するものとして、3つのアンケート結果を挙げられる。</p> <p>「学校の決まり・規則を守った」・・・97.3%、「学年・学級の友達と協力した」・・・94.5%、「学年・学級の友達に優しく接することができた」・・・97.3%</p>	

<p>③ 定期テスト前にはテスト範囲の学習事項を出題するなどの工夫を凝らした形で朝学習を実施している。定期テストにおける 5 教科の達成率 3 割未満の生徒の割合は、119 人中 19 人・16.0%であった。</p> <p>校内会議に出席する教科担当者を除き、一部の強化であるが、定期テスト前に補充学習を行うことができた。また、夏季休業中も補充学習や質問日など、学習機会をもうけた。チャレンジテストにおける得点率は、2 年時の数値の96%と下回る結果となった。</p>
次年度への改善点
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>

【国語科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○授業内容を精選し、基礎学力の定着と国語を適切に表現する力を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・授業で出されたプリントや問題集などの課題提出率を 80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○各単元でのねらいを明示し、アクティブラーニングを行い、国語への興味・関心を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・校内授業アンケートを各学期に行い、「授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①提出率は学年によって多少の差はあるが、全学年で 80%以上を超えている。</p> <p>②「興味・関心・意欲」88.9%「授業理解」86.4%</p> <p>・授業アンケート(全学年)は以上の結果となり、全学年を総合して 80%を超えている。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>	

--

【社会科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○基礎学力の定着を図るため、復習プリントを配布する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・復習プリントの未提出率を25%以下にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○定期テスト前の課題プリントを配布する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・定期テストにおける正答率6割以上の生徒の割合を1/3以上にする。</p> <p>・テスト前に課題プリントを2枚以上配布する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①復習プリントの提出については、未提出率は各学年15%以下となっているので、指標を達成している。</p> <p>②定期テスト前の課題プリントについては、毎回の定期テストごとに配布できたので今後も継続していきたい。定期テストにおける、正答率6割以上の生徒の割合については、少なくとも各学年40%以上の生徒が6割以上を示しているので、指標を達成している。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>	

【数学科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	A

○授業形態を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	
指標 ・定期テストにおける正答率 3 割未満の生徒の割合を 25%以下にする。 ・生徒アンケートにおける「授業がわかる」と肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○宿題や確認プリント(家庭用)を利用し、家庭学習の定着をはかる。	A
指標 ・宿題や確認プリントに週 1 回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①・1 学期期末テストにおける正答率 3 割未満の生徒の割合が、全学年で 16.0%であった。 →指標とした数値は達成した。 ・1 学期末に行った生徒アンケート「学習内容の習得」における肯定的に回答する生徒の割合が、 全学年で 94.3%であった。 →指標とした数値は達成した。 ②宿題や確認プリントを全学年、週 1 回以上行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【理科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○理科教育の充実のため、学習内容について、身近なことを通して興味・関心を高める。	A
指標 ・令和3年度の校内調査において、「授業がわかる」「授業が楽しい」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 7 割以上にする。	

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○全学年で週に1回、復習問題を行う時間を設け、練習問題等により基礎・基本の定着を図る。	B
指標 ・定期テストにおける正答率 3 割未満の生徒の割合を 20%以下にする。	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○学習内容を工夫し、実験・観察を通して興味・関心を高める。 ・令和2年度の生徒調査における「実験・観察に積極的に取り組むことができた」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 8 割以上にする。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①・③について、1学期に実施したアンケートの結果では、「わかる」が94.3%で、「意欲」が96.2%であり、どちらの結果も90%を超えていた。引き続き、学習内容に工夫し、生徒の興味・関心を高める授業をすすめていく。 ②について、定期テストにおける正答率 3 割未満の生徒の割合が、1学期期末で14.1%であった。引き続き、3割未満の生徒の割合を低くできるよう学習指導をすすめていく。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【音楽科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 生涯学習の支援】 ○歌うこと、演奏することの喜びや楽しみを実感させ、音楽への興味関心を高める。	
指標 ・令和3年度の授業アンケートにおける「興味・関心・意欲」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	

<p>○楽譜の読み方や楽器の構造、作曲者の歴史など音楽の基礎的な知識を定着させるとともに、音楽を感受し表現する力を養う。</p> <p>○歌うこと、楽器を演奏することの基本的な能力を身に着ける。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の授業では感想文を提出させ、意見の共有をはかる。 ・小テストを実施し音楽の基礎的な知識の定着をはかる。 ・実技テストを実施し、歌うこと、楽器を演奏することの基本的な能力が身についているか確認する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組の進捗状況】</p> <p>①授業アンケートの結果、「興味・関心・意欲」の項目において77%で目標を上回った。</p> <p>②鑑賞の授業での感想文は提出させたが、少ししか書けていない生徒も多いため、書き方のアドバイスなどの工夫が必要である。</p> <p>基礎的な知識の定着をはかるため、小テストの毎時間実施を実施した。結果、期末テストでの基礎的な知識の部分において正答率が上昇したため、年度末まで続けていきたい。</p> <p>感染対策を行ったうえで、1学期は歌、2学期は歌とリコーダーの実技テストを実施した。</p>	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>○</p>	

【美術科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○美術への興味・関心を高め、創造活動や鑑賞の面白さ・楽しさを実感できるよう授業を工夫する。</p>	
<p>指標</p> <p>○美術への興味・関心を高め、創造活動や鑑賞の面白さ・楽しさを実感できるよう授業を工夫する。</p> <p>○令和4年度の授業アンケートにおける「作品制作が楽しい」の項目において、「そ</p>	

う思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○作品制作や鑑賞を通じて、豊かな情操を育む。課題や作品に対して粘り強く取り組む姿勢を養う。	
指標 ・令和4年度の授業アンケートにおける「作品をより良いものにしようとしている」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を85%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①授業アンケートにおける「作品制作が楽しい」の項目において肯定的な回答をする割合が、 1 年生は90%、2 年生93%、3 年生 96%という結果になった。 全学年を通して数値目標を達成している。後期もこのまま続けていきたい。 ②授業アンケートにおける「作品をより良いものにしようとしている」の項目において、肯定的な回答をする割合が、 1 年生は82%、2 年生90%、3 年生 91%という結果になった。 2・3年生は目標数値を超えることができたが、1年生は目標より3%下回ってしまった。 要因としては前期中の作品制作が少なかったことが考えられる。 後期に入り、授業数が増えたので作品を制作する時間を増やししながら、より良い制作ができるように努力していきたい。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【保健体育科】

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○視覚的教材を利用し、保健体育への興味・関心を高める。</p>	B
<p>指標</p> <p>・ICTを活用した授業を各学年の保健・体育の授業で活用し、校内調査における授</p>	

業の内容に興味・関心・意欲をもつようになったと回答する生徒の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○T・Tを活用し、習熟度別に課題を設定することにより体力、技能を向上させる。 ○ダンスの授業で、プロの外部講師を招き、生徒の興味関心を引きながら本格的なダンスの指導を行う。	B
指標 ・生徒アンケートにおいて、ダンスの授業が「楽しかった」「仲間と協力して取り組めた」と肯定的な回答をする生徒の割合を 85%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①保健の授業では映像と実技を活用し、体験型の授業内容を取り入れることで、生徒の興味関心を引き出す工夫を行っている。体育の実技に関しては、一人一台端末を活用する種目を増やし、グループワークを活用するなど、工夫している。 1学期終了時点では、1年生78.6%、2年生84.8%、3年生87.3%となっており、学年ごとに取り組む方の工夫が必要である。2学期以降に関して今後検証していく。 ②T・T を活用しての、習熟度別の課題解決に向けて授業内容の工夫は、種目によってできたりできなかったりである。行事等の取り組みの授業では難しいので、男女別の授業の中で取り組んでいきたい。 ダンスの授業は、11月初旬に終わったばかりなので、最終反省にて示す。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【技術・家庭科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○ものづくりに対する関心・意欲を高め、ものを作る楽しさを実感できる実習を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>・令和4年度の授業アンケートにおける「興味・関心・意欲」の項目において、「そう</p>	

思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○規律ある学習態度を身に着け、安全に教材・教具を扱い、怪我なく実習を行う。	B
指標 ・令和4年度の授業アンケートにおける「個の状況に応じた支援」「望ましい学習集団の育成」の項目において、「そう思う(だいたいそう思う)」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①興味・関心・意欲がアンケートでは88%を示す。原因として実習が一学期は行っていなかったため、座学の取り組みが実習につながらなかった。二学期以降に実習が控えているので実習を通して座学と実習がつながり興味・関心・意欲の向上につなげたい。 ②アンケートより個に応じた支援については 87%、望ましい学習集団の育成については 85%を示す。生徒の様子を把握し、より個に応じた支援や誰もが学びやすい学習集団を形成していく必要がある。そのためにも質問しやすい雰囲気づくりや教師からの言葉かけなどの工夫が必要であると考える。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	

【英語科】

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○分割授業の活用、授業の工夫や家庭学習の充実を図り、基礎・基本の定着を図る。	A
指標 ・家庭学習課題の提出率 75%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○習熟度別少人数授業を実施し、生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導を行う。 また、定期的に小テストを行い、学習の定着を図る。	B

指標 ・定期テストにおける平均正答 2 割未満の生徒の割合を、いずれの学年も 15%以下にする。	
取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】 ○C-NET を活用し、英語で積極的にコミュニケーションを取る態度を養う。	A
指標 ・パフォーマンステスト(リーディング、スピーキングなど)を行い、達成率を 6 割以上となるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組の進捗状況】 ①家庭学習課題の提出率は、82.3%となった。3年生では、習熟度別分割授業を実施して、授業を行っている。 ②定期テストにおける平均正答2割未満の生徒の割合は、1 年生 5.7%、2 年生 14.8%、3 年生 20.5%となり、全体では 13.4%となり、目標を達成できなかった。3年生では習熟度別少人数授業を実施しており、今後の成果に期待がされる。 ③パフォーマンステストにおいては、C-NET の授業を実施、活用することができている。パフォーマンステストにおいては、72%で目標を上回った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ○	